中学校第２学年　道徳科学習指導案

Aモデル

１　主題名　「いのちを考える」D-（12）生命の尊さ　資料名「奇跡の一週間」（東京書籍）

２　本時のねらい

　　北村さんの生き方や仲間との交流を通して、生命の尊さ（生命の有限性）を理解し、人は互いに支え合って生き、生かされていることに気付き、自他の生命を大切にして生きようとする心情を育てる。

３　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 過程 | 基本発問と予想される生徒の反応 | ◇教師の指導　※留意事項 |
| 導入 | １「生きる」とはどのようなことか交流する。  ・今を精一杯に過ごすこと。  ・大変なこと。  ・命があるからこそできること。  ・自分らしく生活すること。 | ◇「生命の尊さ」の価値についての導入を行う。  ・考えを交流することで、自己を見つめ、「生命」について自己の考えに気付くことができるようにする。 |
| 展開　前段 | ２　資料「奇跡の一週間」を読み、話し合う。  〇キツネのイラストをお願いした時、始めは後悔していたのに、なぜ途中から注文をつけるようにしたのだろう。  ・北村さんの真剣さを感じて自分も刺激を受けた。  ・北村さんに真剣に関わり合えていない自分に気付いた。  ・北村さんは、今この瞬間を大切にしている。自分も全力で立ち向かわないと、北村さんに失礼。  ◎「あの時間は、私にとっても本当にかけがえのないものでした。」と私が考えたのはどうしてだろう。  ・北村さんの頑張りがあったから自分も頑張れた。  ・二人で一緒に作品を作り上げられたと思ったから。  ・みんなの思いが一つになっていたから。  ・今を精一杯に生きることの素晴らしさに気付かせてもらえたから。  ●かけがえのない時間を過ごすことができたのは、私と北村さんだけだろうか。  ・北村さんの奥さんも充実した時を過ごせたと思う。  ・みんなが一丸になって支え合っていた。  〇「生きる」とは、どのようなことなのだろうか。  今を精一杯に生活すること。人は一人で生活しているのではなく、何気ない日頃の生活の中で仲間と支え合っているのだと感じました。お互いが今を精一杯に生きていると理解し、支え合うことが「生きる」上でとても大切なことだとわかりました。 | ・私のがん患者に対しての意識が変化したことを押さえる。  ・弱っていく人に対して優しい言葉をかける以外にも、いのちを大切にする方法があることに気付くことができるようにする。  ・板書を指し示すなど、北村さんと接している中で私に起きた変化からつなげて考えられるようにする。  ・板書に構造的に位置付けることで、多面的・多角的に考えることができるようにする。  ・（●深めの発問）そう考えた理由を問い返し、さらに自己を見つめるようにする。  ・かけがえのない時間を過ごしたのは私と北村さんだけではないことに着目させることで、支え合い、影響し合って生きていたことに気付くことができるようにする。  ・個々に本時の気付きや道徳的価値に対する考えをまとめる。  【評価の視点】  「生きること」を「いのち」と関連付けて多面的・多角的に捉えている。 |
| 展開　後段 | ３　これまでの生活を振り返り、「生きる」ということについて、また、これからの生活について自分を見つめる。  ・普段の生活の中での仲間を思った関わりが、一生懸命生きることにつながるのだと感じました。  ・自分のかけがえのない生命を大切にして、何気ない仲間との生活でお互いに支え合って生活したい。  ４　振り返りを交流する。 | ・自分自身の経験や考えを記入することで、「生きる」ということについて自分自身をじっくりと見つめることができるようにする。  ・自分の経験と関連付けて、振り返ることができている姿を価値付ける。  ・変容が見受けられる生徒を意図的に指名する。 |
| 終末 | ５　教師の説話を聞く。 |  |

※保健体育の学習の後に本時を位置付ける場合、緩和ケア等の学習内容との関連を意識して働きかけ、いのちの尊さについて多面的・多角的に考え、より深く考えることができるようにする。